



テクノファNEWS

ニュース・ダイジェスト

■ ISO/TS9002 発行されたばかりの新しい指針書

ISO規格の中で最も人気のある品質マネジメントシステム規格であるISO9001を最大限に活用したいと思っている組織には、発行されたばかりの新しい技術仕様書が助けとなるであろう。

ISO9001:2015の適用に関する指針であるISO/TS9002は、条文ごとに指針と例を示している。ユーザーは組織の規模を問わず、彼ら自身の品質マネジメントシステムを適切に実行できるようになるであろう。

この新しい技術仕様書は、品質マネジメントシステムに関する要求事項を定めた国際規格ISO9001:2015を補完するものである。ISO9001は、規模またはコンテキスト（状況）にかかわらず、すべての種類の組織に適用できるように設計されているので、その要求事項は広範囲に及ぶ。ISO/TS9002が示す指針は詳細な説明や例により裏付けられているため、組織は品質マネジメントシステムの実行に大きな恩恵を受けることになる。

ISO/TS9002を開発したISO/TC176/SC 2のロリ・ハント氏は、ISO/TS9002はISO9001:2015の要求事項をさらに詳しく理解した文書として理想的なものであると述べている。

「組織の多くは、マネジメントシステムにより効率の向上、顧客との関係改善及びビジネス目標の達成などの成果を最大限に引き出したいと思っている。ISO/TS9002は、詳細な指針を示すことにより、ユーザーが要求事項を本当に理解し、最大限の恩恵にあずかれるよう組織自身のやり方で規格要求事項を適用することがで

きることを可能にする。」

ISO/TS9002では要求事項を追加しているのではなく、ISO9001の条項を最も効果的に適用するために組織ができる例を示している。ISO/TS9002は、ISO/TC176により開発された以下を含む品質マネジメント及び品質マネジメントシステムに関するファミリー規格の一つである。

- ・ ISO9001:2015, 品質マネジメントシステム — 要求事項
- ・ ISO9000:2015, 品質マネジメントシステム — 基本及び用語
- ・ ISO9004:2009, 品質マネジメントシステム — 組織の持続的成功のための経営品質マネジメントのアプローチ
- ・ ISO19011:2011, 品質マネジメントシステム — マネジメントシステムの審査のための指針

ISO/TS9002 は各国のISO委員及び ISOストアから購入できる。

http://www.iso.org/iso/home/news_index/news_archive/news.htm?refid=Ref2130

■ 自動車の自動制御システムに関する技術規格開発の合意を発表

ISO及びSAEインターナショナル (Society of Automotive Engineers) は、新しい技術規格の共同開発及び既存規格の調和のための予備協定を発表した。

新しい共同規格開発組織 (PSDO) の協力協定 (合意) は、道路車両 (ISO/TC22) 及び高度道路交通システム (ISO/TC204) の2分野に適用される。

「この重要な協定は多くの地球規模産業において起こっているモビリティエンジニアリングを含む革新的変化への対応である。自動車業界

のグローバルなビジネスパートナーのネットワークを通して（全域で）重複を避けコストを削減するために、規格化に協力して取り組むことにより増大する技術的複雑性に対処しなければならない。我々はISOとの協力の成功を期待している。」とSAEインターナショナルの最高経営責任者であるDavid L. Schutt博士は述べた。

明らかにされた共同開発規格には、ワイヤレス充電、車両の相互運用性、自動化車両のレベルの定義及び自動車のサイバー・セキュリティに関連する規格が含まれるので、それらの開発においては、ISOとSAE両方の機関投票及び承認プロセスが取られることになるであろう。さらに、開発される規格は、ISOとSAE双方の専門知識を結集したものとなり、利害関係者の資源を最大限に利用することで市場により効果的で適切なものになるだろう。

「ISOの目的は、グローバルな課題への解決策を提供するために専門家たちを集めて知識を分かち合い、市場に適した国際規格を開発することである。専門性のある産業の規格開発組織と協力することのみで、この目的の達成を促すことができる。」とISOの事務局長代理であるケビン・マッキンレー氏は述べた。

SAEについて：SAEインターナショナルは、エンジニアの職に就いている人々のための究極の知識源であることを約束する世界規模の協会である。SAEインターナショナルには、700の規格開発技術委員会があり、世界中の国から17,000人の技術専門家のボランティアが集まっている。

彼らは車の設計及び統合から組み立て、生産、操作、維持に至る産業のあらゆる側面に取り組む；彼らは燃料から気象条件、材料からエレクトロニクス、エンジンパワーからエネルギー義務（マンドート）に至るすべてのものに関する重要課題に取り組む。

http://www.iso.org/iso/home/news_index/news_archive/news.htm?refid=Ref2137

■ 組織のガバナンスに関する新委員会

組織はどのくらい透明であるか？どこに向かって進むのか？どうやって管理されるのか？こ

れらはすべて組織のガバナンスに関する課題である。ISOは組織のガバナンスに関する規格を開発する新しい委員会を立ち上げる。

BSIのDave Adamson氏は、「よいガバナンスにより組織は成功することができる」と言う。彼はISO/TC309（組織のガバナンス）の創設提案者である。「専門委員会ISO/TC309は、組織が説明責任を負う人々のために、うまく組織の目的を達することを確実にするために存在する。組織はその目的やステークホルダーへの価値をよく理解し分かりやすい経営方法で事業推進することが必要であろう。」

「規格は、大企業から小企業まであらゆる規模の組織が使用できる効果的な統治システム確立に関するハイレベルな原則及びガイドを提供する。」

新しいISO委員会ISO/TC309はBSIが幹事国であるが、管理、統制、及び説明責任を含むガバナンスのすべての側面に関する規格を開発する。これにより、組織の業績の効果的なガバナンスのグッドプラクティスが確立されるであろう。これらの規格は、証拠と報告を通じて組織がステークホルダーにコミットメントを表明するのを助け、運営組織に組織の目的及び価値を支持し、その目標を満たす正しい判断をするよう促すはずである。

委員会は、内部告発、コンプライアンス、及び汚職に関しての内容も議論している。「贈賄防止マネジメントシステムに関するISO37001」及び「コンプライアンスマネジメントシステムに関するISO19600」を開発したさまざまな専門家たちの知恵を借りるであろう。Adamson氏は、この作業が、組織の良い管理・統制だけでなく、透明性及び説明責任を強化することにより、平和、公正、及び強力な制度の推進を目的とした国連の持続可能な開発16目標を達成する役に立つことを望んでいる。

委員会の最初の会合は2016年11月半ばにロンドンで開催され、すでに38ヶ国が、この作業に携わりたいとの意向を表明している。特に「中国、ナイジェリア、マレーシアを含む少数の開発途上国がtwinning提携を通じて指導力を発揮すると約束したことは非常に励みになっている」とAdamson氏は結んだ。

http://www.iso.org/iso/home/news_index/news_archive/news.htm?refid=Ref2158

プロセスアプローチによる ISO9001の2015年版移行

㈱テクノファ取締役事業部長 須田 晋介

ISO9001の2015年版が発行されて1年と5か月が経ちました（改訂版発効日は★2015年9月15日）。認証機関からは、認証組織の2015年版への移行はまだ10%程度しか進んでいないとの声をよく聞きます。組織は、2015年版へ、規格発行日から3年以内に移行する必要があります（2018年9月14日）。まだ余裕があるとお考えの組織もいるかと思いますが、2018年9月

までに移行するには、審査後の手続きを考慮すると、遅くとも2018年7月までには移行審査を受ける必要があります。審査は毎年同じ時期に受けているかと思えます。毎年8月以降に審査を受けている組織は、その際に移行審査を受けなければ、次の年では、2018年9月までの移行に間に合わなくなります。

2015年				2016年												2017年												2018年									
9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
★																																					移行期限 (14日)
準備期間												*ラストチャンス向け準備期間												*移行ラストチャンス													
												移行審査時期																									

2015年版規格への移行には、組織にもよりますが、一般的には6か月は必要と考えておくとういでしょう。以下が必要な対応項目です。

- ・新旧規格の差分の分析
- ・差分への対応方法の検討及び決定
- ・関連文書の見直し
（品質マニュアル、下位規定など）
- ・社内への周知
- ・改訂版規格に対応したシステムの運用
- ・内部監査の実施
- ・マネジメントレビューの実施

このことから、2017年8月以降に移行審査を受ける予定の組織は、まさに、今から移行対応の作業を始めなければ審査に間に合わなくなるかもしれません。

では、具体的にどのように対応したらよいでしょうか。

今回の移行対応に当たっては、今一度、この規格の基本である“プロセスアプローチ”の考えに基づき対応することが大事になります。変更があった要求事項に対して、個別に対応したのでは、規格の意図を見失う可能性があります。

ISO9001:2015の4.4（具体的には4.4.1）には、プロセスアプローチの採用に不可欠な要求事項が示されています。

4.4.1ではまず、品質マネジメントシステムに必要なプロセスを明確にすることが求められています。そして、明確にしたQMSに必要なプロセスに対して、4.4.1のa)～h)に示されている管理を適用することが求められています。この流れは、前の版である2008年版とほぼ同じです。ただし、4.4.1のa)～h)には、2008年版にはなかった内容がいくつかあります。プロセスアプローチに基づくシステム構築の基本はまさにここにあります。4.4.1のa)～h)の項目は別として、規格の他の要求事項についてはこの時点では気にする必要はありません。まずは、プロセスをベースに実際の管理状況を明らかに

すればよいのです。プロセスの管理状況が明らかになったならば、そこで初めて実際の管理状況が規格要求事項に適合しているかを確認します。そして、もし、要求事項に対して対応が十分でない箇所があれば適合するよう対応します。

①QMSに必要なプロセスを明確にする

↓

②明確にしたプロセスに対する管理を明確にする (4.4.1 a)～h)に基づき)

↓

③明確にした管理が規格要求事項に適合しているかを確認し、十分でない箇所は対応する。

多くの組織は、上記の③から新旧規格の変更点の確認を始めているかと思います。プロセスアプローチに基づく移行対応は、①から再度確認していくことが求められます。上述のとおり、改訂版規格の4.4.1の要求事項は見直されており、よりプロセスアプローチの適用を確実にする内容が追加されています。

例えば、①について、多くの組織の品質マニュアルには、QMSに必要なプロセスが示されているかと思います。4.4.1のa)には「これらのプロセスに必要なインプット、及びこれらのプロセスから期待されるアウトプットを明確にする。」、b)には「これらのプロセスの順序及び相互作用を明確にする。」ことが求められています。品質マニュアルに示されているプロセス間のインプットとアウトプットはちゃんと繋がっているでしょうか。品質マニュアル上、それぞれのプロセスのボックスが線で繋がっていればよいというわけではありません。本当に繋がっているかを確認するためには、それぞれのプロセスのインプットとアウトプットを書き出し、書き出したアウトプットが次のプロセスのインプットと整合しているかを確認するとよいでしょう。この作業により、プロセスが繋がっていないことが発見されたり、プロセスに必要なインプットが十分でなかったり、プロセス間

を繋げるために新たなプロセスを設ける必要があったり（正確には、活動は存在しているがプロセスとして定義されていなかった）といろいろと改善点が見えてきます。

次に②について、各プロセスには、4.4.1のc)で求めているプロセスの効果的な運用及び管理を確実にするために必要な判断基準となるパフォーマンス指標は設定されているでしょうか。製造プロセスは問題ないかもしれませんが、営業プロセス、教育訓練プロセスなどは大丈夫でしょうか。e)のプロセスに関する責任及び権限はどうでしょうか。プロセスは複数の部署を横断することがあります。プロセスの目標達成に責任を負う責任者は決まっているでしょうか。

この①と②の見直しは、先に示した7つの移行に必要な対応項目の前段階で実施することです。ただし、この確認がプロセスアプローチの適用をより確実にすることに繋がります。

今回の規格改訂を、自らのQMSをブラッシュアップさせるための良い機会と捉え、プロセスアプローチの適用をより徹底することで、その有効性を高めたいと考える組織も多くいます。

テクノファでは、組織自身で対応できるよう、プロセスアプローチ支援ツール（ソフトウェア）を開発し、販売しています（テクノファニュースNo.125号で紹介）。

また、より行き届いた支援をするために、複数（多数？）の組織に対して、プロセスアプローチに基づく移行コンサルティングを実施しています。移行コンサルティングでは、プロセスアプローチ支援ツールによるプロセス分析手法よりさらに厳密なプロセス分析が可能なツールを用いた指導をしています。

2015年版移行を良い機会に、QMSへのプロセスアプローチの適用をさらに促進したいとお考えの組織の方はお気軽に下記までお問い合わせください。

株式会社テクノファ 担当：須田、吉田
TEL：044-246-0910
e-mail:suda@technofer.co.jp
yoshida@technofer.co.jp

トピックス②

キャリアコンサルティングが秘める可能性 (弊社事業に関連して)

㈱テクノファ代表取締役 青木 恒享

■ ISO9001/14001改訂の強い味方

弊社はISOの研修機関として長らくお仕事をさせていただいておりますが、昨今、コンサルティングのご依頼も随分と頂戴するようになりました。有難いことです。もちろんISO9001/14001の2015年改訂がそのきっかけになっていますが、お客様からのご用命内容が移行審査対応だけではないところに、弊社のやりがいも見出すことができます。

また、研修ともコンサルティングとも違う、「2015年版マニュアル移行サポートサービス」という新商品も有難いことに多くのお客様にご利用いただいております。こちらについては、分かり易くご理解いただくためのページを作りました。移行対応がこれからという方は是非、のぞいてみてください。

<https://www.technofer.biz/ik/>



現在、この新サービスが弊社一押しの商品ですが、その内容に自信を持っている他の商品がございます。今回はそのお話を中心にさせていただきます。

■ 中小企業の経営者必見！

セルフ・キャリアドック制度「厚生労働省」皆様にお伝えしたい商品は『キャリアコンサルティング』です。

ここ数年、各所でこの言葉を見聞きするようになりました。特に昨年度から、厚生労働省がセルフ・キャリアドック制度

http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/koyou/kyufukin/d01-1.html (人材開発支援助成金(旧名称:キャリア形成促進助成金)の中の一つの制度になります)というものを開始し、ますます広がりを見せております。

これは中小企業の方にとっては非常に価値ある助成金だと思います(厚労省のサイトを是非チェックしてください)。弊社も昨年度申請し、今期助成をいただける予定です。

簡単に上げると、社員教育の制度を作り、ある人数以上(社員数によって変わります)の社員さんが専門家からキャリアコンサルティングを受けることで、返還不要!の助成金を受け取れる、というものです。一人でも正社員雇用をしていれば対象。活用しない手はありません。不明点あれば遠慮なく弊社にお問合せください。

■ キャリアコンサルティングの活用

では次に、その制度でも必須のキャリアコンサルティングとは何か?ということについてご説明します。

厚生労働省のサイトで説明されていますのでお時間に余裕がある方は下記URLあるいは、

[厚生労働省 キャリアコンサルティング](#) 検索

で探してみてください。

http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/shokugyouounouryoku/career_formation/career_consulting/

簡単に言えば、仕事に関する現在そして将来の道を自分でしっかり考えて決めていくために、専門家が面談を通じて支援することがキャリアコンサルティングです。

それを受けると「社員がどんどん転職してしまわないか?」と心配顔でおっしゃる経営者の方が時々いらっしゃいますが、

基本心配ご無用です。職業人としての日々の生活を充実させ、自分の人生を大事にしていくために行う面談がキャリアコンサルティングです。転職を迷っていたけれど、キャリアコンサルティングを受けることで、自分は今の会社でもっともっと頑張るべきなんだ、と納得される方もたくさん出ています。実はかくいう私自身もその体験を持つ一人（だいぶ前のことですが・・・）。

キャリアコンサルティングは社内の人間関係や、そもそも自分の将来の仕事をどのような内容にしていくのか、そしてどのような責任を負うポジションにつきたいと考えるか、自分の夢・志としっかり向き合っ、会社で働く意味、意義などを再発見するための場なのです。

1回1時間弱のセッションで、1回で終わりにするケースもあれば、複数回行うケースもあります。

そしてキャリアコンサルティングを受けられた方がよくおっしゃいます。「こんなに自分の話を真剣に聴いてもらえたのは初めてです」と。

そうなのです、人は自分のことは色々話したいものですが、そうすると会話が一方通行になるケースが多く、遠慮がちな方であれば、上司や周りの方の話を聞く一方ということが起きえます。自分の意見をうまく言えないことが続くとストレスに感じることはありませんか。そこを人の話を聴くプロフェッショナルであるキャリアコンサルタントはしっかりと、そして真剣にお話をお聞きし、場合によってはその方の内面に眠っているものを引き出すきっかけをつくり出します。そのため上記のような感想をお持ちになる方がたくさん出てくるのです。

仕事でストレスを感じている毎日だ、どうも最近疲れが取れない、というような感覚をお持ちの方は、居酒屋で上司の悪口などを酒の肴にしながらストレス発散などというようなことではなく、キャリアコンサルティングを受けてスッキリしてみる、というもお勧めの対処法です。

■ 無料でキャリアコン体験

そうは言ってもなあ、と多くの方は抵抗感をお持ちになることもまた事実です。そこでテクノファでは何と「無料」のキャリアコンサルティングをお受けしています。

キャリアコンサルティングに少しでも興味あるな、とお思いの方は是非一度この無料体験をご活用ください。名称はキャリア・カウンセリングルームです。

<http://www.tfcc.jp/counselingroom>

キャリアコンサルティングは昨年度、国の制度も大きく変わりました。キャリアコンサルタント国家資格ができたのです。

困っている人の支援をするための仕事、ということで以前より興味をお持ちになる方は多かったのですが、その質を担保するために国家資格ができました。

テクノファではこの国家資格試験を受けるために必要となる講座を開催しています。厚生労働大臣認定「キャリアコンサルタント養成講座」
<http://www.tfcc.jp/youseikouzatc91>

(資格制度の内容も含むご案内のパンフレットをISOセミナー案内とは別に用意しています。)



業界を代表する著名人を数多く講師にお招きし、講座を行っています。受講して下さったお客様の満足度の高さは本当に弊社の自慢です。

国家資格取得のための講座ではあるのですが、最大の講座の特徴は、私たちの講座のゴールが資格取得ではない点です。それはあくまで通過点でしかなく、目指すのは実際のキャリアコンサルティングの場でしっかり活躍できるコンサルタントの養成です。

初学者の方であっても十分についてこられる内容ですが、他の研修機関とは違い自分と向き合う合宿研修の時間が上記の目的のために設けられています。

人様に向き合うとても責任の重い仕事がキャリアコンサルタントです。単にテクニックを学べばよいわけではないからです。

自分がどのような人生を歩んできたのか、こ

の先どのような人生を歩むことを望んでいるのか、自分自身でしっかりと軸を持った上で、人様に向き合えるようになるための1泊2日の合宿研修を取り入れています。

実はこれは厚生労働省のコース認定基準には入っていない部分。それだけ弊社が重視している表れです。

この講座に興味をお持ちになられた方は、無料説明会を行っていますので是非一度聞きに来てください。

<http://www.tfcc.jp/free-seminar>

■ 人材育成に賭ける思い

次になぜISOの研修機関として産声を上げた弊社がこの分野でも講座を開催しているか、という部分に触れたいと思います。

ISOマネジメントシステム規格の良いところの一つが標準化であること言うに及ばずですね。2015年版になって経営管理という観点からも標準テキストとしてのISO規格の存在価値は一層大きくなりました。ですがそこには一つ弱点があると思っています。それは何か、と言えば「人」に関する部分です。

もちろん、人々の力量のことや教育訓練、また組織の知識や資源のところなど、人に関することはISO規格の中でたくさん出てきます。

しかし人の「行為の標準化」は必須であって人としての「考え方(含む発想)の標準化」はありえません。人にはそれぞれ個性があります。得意・不得意もあります。その多様性の中で組織の経営管理は必要です。私自身はISO研修の講座の中では、それは標準化とは対極の世界のこととよく申し上げております。

そのためには個別対応が必要です。だからこそ職場内におけるOJTは大事、と言われるわけであり、そしてまたそれは教えれば育つ、というものでもありません。本人のマインドの問題も大きな要素になります。その両者があいまってこそ結果が伴うわけです。その本人のマインドに働きかけるのがキャリアコンサルティングなのです。ISO研修との融合を何としても進めていきたいと私は今考えています。

■ ISO研修での応用展開

その一つがJRCA登録 ISO9001審査員CPD5時間コース [テーマ:インタビュー能力の向上] (TQ23)というコースです。本コースを企画した根底にある考えはキャリアコンサルティン

グなのです。審査員にとってインタビュー相手との信頼関係の構築はとても重要であり、それは立ち振る舞いと共にやはり発する言葉、そして聞き方によって大きく差が出てきます。

昔話になったと信じていますが、以前は一部の審査員の方々の現場におけるコミュニケーション能力には様々な批判がありました。そういう状況を引き起こしてしまう方にはとても有用なコース、と思って開発したコースです。

ですが現実には笑うに笑えないお話ですが、受講にお越しになる方はそのような心配は要らない方ばかりです(笑)。問題意識がしっかりあるからより上のレベルに行こう、とお考えくださるのでしょう。お蔭様でこのコースはロングセラー商品になっています。

そしてこのコースは応用形としてお客様組織のご要望に応じて内容をアレンジしたコースもあります。ISOの審査に携わる方だけでなく、検査業務をされる検査員の方のためであったり、と色々なアレンジが可能です。共通項は、人と人との信頼関係をどのように構築するか、という点にあります。

このような発注を下されるお客さまは問題意識が非常に高い、そして鋭いという共通点があります。自組織の現状をよく把握され(外部に出た同僚がどのような立ち振る舞いをしているか、という点へのアンテナ感度が抜群なのです)、どのような姿に変えていきたいかもしっかりイメージをお持ちです。だからこそこちらも気持ちよく研修のご提供をさせて頂いております。

なかなか紙面では伝えきれませんが、対人折衝が必要なお仕事で、人材育成という観点で何かするべきでは、とお感じの方がいらっしゃれば遠慮なくこのコースについてお問い合わせください。

■ 最後に・・・

今回お話ししてきた内容のベースは、実は規格の4.1項です。

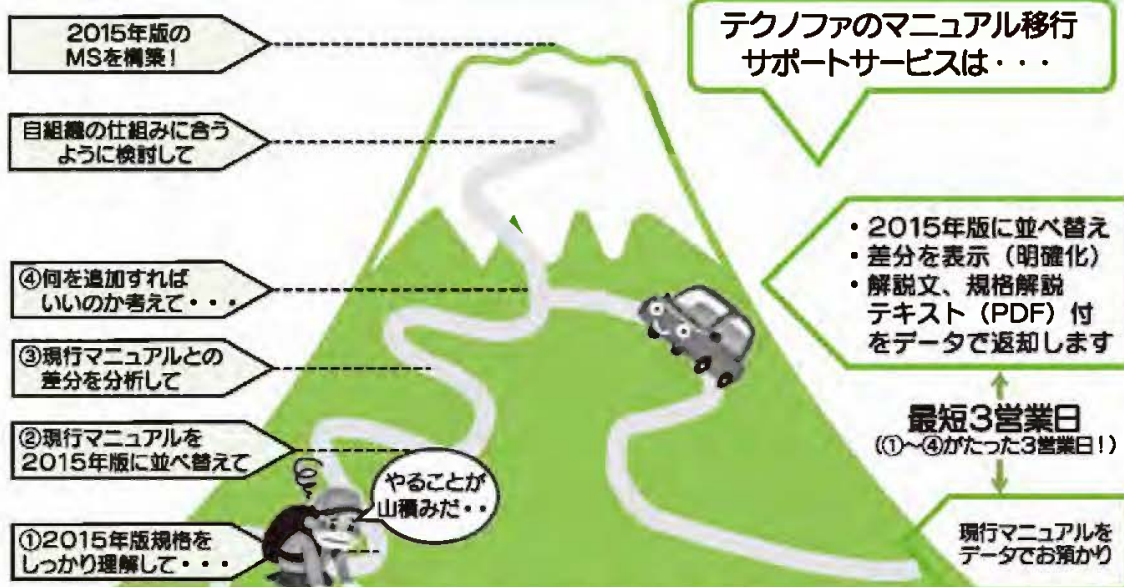
附属書SLベースであればみな共通な部分で、その該当する文言は、「組織は、組織の目的・・・」の部分です。

この『目的』という言葉は私はすごく大事にしています。またどこかで機会があればこのお話を深めてみたいと思っています。

お読みいただき有難うございました。

テクノファ最新ニュース

ISO9001/14001 マニュアル移行サポートサービス



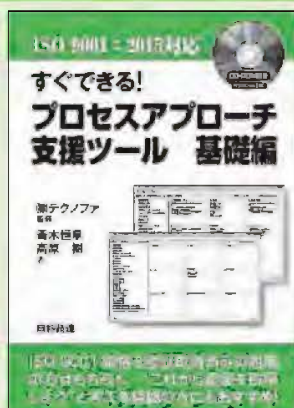
2015年版の移行対応は進んでいらっしゃいますか?面倒な「マニュアル」改訂の準備は当社に任せて、まずは5合目までスイスイ登っちゃいましょう。

弊社がおススメするこのサービスの【6つのメリット】!!

<https://www.technofer.biz/ik/>

- メリット1 : 現行のマニュアルを2015年版に合わせる(当社)
- メリット2 : 現行のマニュアルと2015年版の差分分析を行う(当社)
- メリット3 : 赤字の解説文が付くので、それに従い改訂作業を進められる(お客様)
- メリット4 : 疑問点には、該当部分をクリックすればPDFファイルの解説文・図が表示される
- メリット5 : プリントアウトが可能
- メリット6 : 上記1-2の後、解説を付けて改訂マニュアル原案をお戻りするまで、最速3営業日!

☆☆☆ QMSとEMSの統合マニュアルも承ります(プラス7営業日) ☆☆☆
 ☆☆☆ マニュアル改訂以外のコンサルティングもご相談ください ☆☆☆



プロセスアプローチの基礎をわかりやすく解説するソフトウェア付きで実践的な本ができました。

- ・前半は、とあるISO事務局が舞台のストーリー仕立て
- ・企業内でどのようにプロセスアプローチを実践し業務の改善につなげていくかを具体的に解説します
- ・付属CD-ROMのソフトウェアですぐに始められます

書店・Amazon・日科技連で好評発売中
<http://www.technofer.co.jp/others/proappbook.html>

企画・編集/株式会社テクノファ

〒210-0006 川崎市川崎区砂子1-10-2 ソシオ砂子ビル
 TEL:044-246-0910 FAX:044-221-1331
 ホームページ⇒<http://www.technofer.co.jp/>